

ナガノパープル裂果対策管理講習会（資料）

JA グリーン長野営農販売部営農指導課

I 今回講習会での目的

～裂果対策を徹底し、品質向上と商品化率向上に取り組もう！！～

～実需者に求められている「黒系ぶどう」の生産拡大を図ろう！！～

◆なぜ黒系ぶどうが求められているのか？

ご承知の通り、シャインマスカットは全国でも増加と一途となっており、当JAでも同様です。量販店などの売場はシャインマスカット一色になる中、黒系2～3割・緑系5～6割・赤系1～2割が売場構成として求められている。市場関係者からは「黒系（巨峰・ナガノパープル・ピオーネ）が欲しい！黒系をもらえるならシャインマスカット販売が厳しい状況でも、なんとか売っていく」と常に言われている。

今後、産地として選ばれるためにも「黒系ぶどう」生産拡大と「シャインマスカット」品質向上が武器となる。

◆しかしながら

「ナガノパープル」は「裂果」が怖い、管理が大変というイメージで、「シャインマスカット」が作りやすく、現状の経営では所得が得られるといった点等から、生産拡大が進んでいない。

◆そこで

「裂果対策技術」のさらなる向上を図り、「ナガノパープル」を中心とした「黒系ぶどう」の生産拡大を図る。

◆結果

「ナガノパープル」等黒系ぶどうの、所得向上。労力分散により「シャインマスカット」品質向上と価格維持にもつなげよう！

◎今回の講習会での主な用語 本資料 線は特に重要ポイント

用語	説明
蒸散	植物の葉（気孔）や茎から水蒸気が放出されること。特に葉の裏側で盛んに行われる。 蒸散とは「水を失う」だけではなく樹体内の水分バランスを整えることも含まれる。
副梢	新梢の葉付け根付近から発生する新梢。光合成速度は本葉より高い。 強い場合は生成した養分を果房に使用せず、栄養成長に使用されてしまう。

II 裂果が助長される条件 ～果粒＝水風船！水分を抜くことも考える！～

1. 強樹勢（R7 No.1 講習会資料参照）

→樹勢が旺盛だと連日の降雨等により養水分を一気に果房へ供給しやすい。

2. 極端な降雨・かん水

→極端な水分の供給は果皮の伸びが対応しきれない。

3. 長期間の曇天雨

→光合成により吸い上げた養水分を「蒸散」するが、曇天雨が続くと光合成機能が低下し、葉の気孔が閉じ、蒸散が滞ると果房へ力がかかる。

4. 極端な新梢・副梢管理

→光合成速度の高い副梢葉を切り落としてしまうと光合成(蒸散)が低下するため果房に力がかかる。

5. 張り

→果粒軟化期以降、果実がずっと張りがある状態。
(○ 朝＝張り有り、夕方＝張り無し)

6. 熟度遅延

→過剰着房・粒で危険な時期が長くなる。

Ⅲ 裂果を軽減させるために (R7時点での知見による)

1. かん水

→果粒軟化期(着色期)以降は、少量多かん水をし、土壌水分の変動を抑制。

1回当たり5mm程度。(20～30分程度)を3日間隔で実施。

→実施時間は、夕方推奨。(朝・昼は乾くのが速い)

2. 副梢活用

→光合成時に「樹体内・果実内の水分」を使用し蒸散する。必要以上に降水量があった場合はこの機能を上手に活用し樹体内から水分を抜くことを考える。

成熟期は、本葉の光合成活動が低下し、光合成速度の速い副梢葉(糖度を早く上げるため)が必要になる。(曇天時でも光合成活動はしている。)

→天気予報を確認しながら副梢整理の強弱、やる・やらないを判断する。

○晴天が続く：副梢切除を多少強く実施してもよい。(裂果発生は少ない)

○曇天雨が続く：急激な副梢整理は控える。(裂果発生助長)

暗い園は軽く行い明るさを保つ。

→軽い副梢整理方法(試行)※裏面参照

3. 環状剥皮(着色向上技術)

→着色向上や果実品質向上等を目的に、満開35日後頃に実施。

※場合により衰弱枯死することがあるため注意が必要。

4. 次年度以降の、強樹勢対策

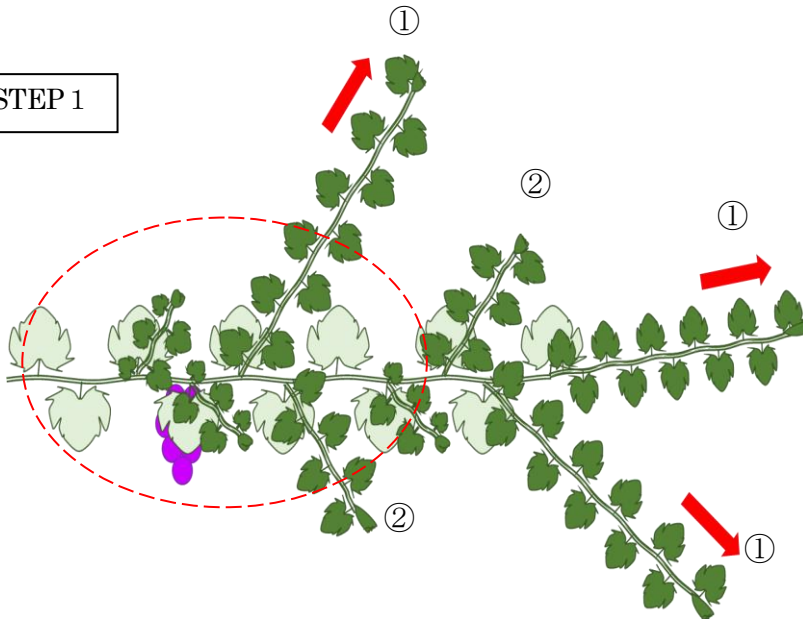
→樹冠拡大を図る。平行整枝H型(4本主枝)では樹冠面積が不足し、強樹勢となってしまう。セミW型(6本主枝)やWH型(8本主枝)とし、適樹勢樹へ。

→前年の基肥施用量を確認。今年の樹勢を判断し適正施肥をする。

【軽い副梢整理方法（試行）】

強く伸びた副梢から随時切除し、中庸～弱い副梢葉で光合成促進と過剰な水分を蒸散させる

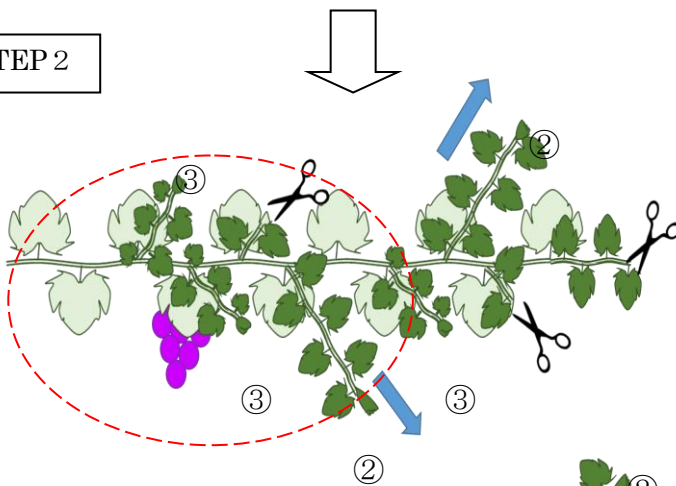
STEP 1



STEP 1 果粒軟化期 7～10日前

- ①. の強く（50～60cm程度）伸びた枝を基から切除。
- ②. の中庸な枝（30～40cm程度）は切らない。
 - ・弱い副梢を抑制
 - ・光合成と水分蒸散→（○内）房周辺の弱い副梢は大事。明るさや防除の妨げとならないようであれば棚下へ下げておく。

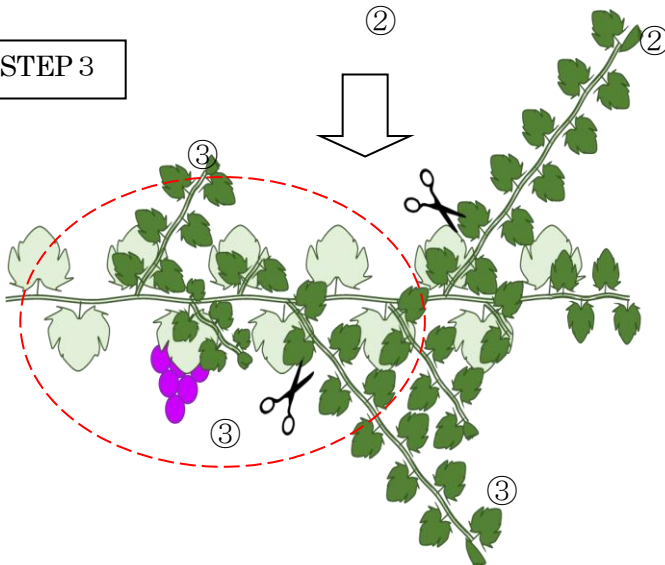
STEP 2



STEP 2 果粒軟化期～

- 生長点が入れ替わり、
- ②. の中庸な副梢が強く伸び始める。
 - 光合成と水分蒸散
 - ③. の弱い副梢が自然停止し始める（切らない）

STEP 3



STEP 3

- ②. 中庸な副梢が強く（50～60cm程度）伸び次第切除。
 - 以降 STEP 2～3 を繰り返す

仕上げ

8月中下旬ごろ糖度が十分に上がり裂果の心配が減れば、伸びている中庸な枝を落とし蒸散機能を抑える。
※③の弱い新梢や自然停止している新梢は切る必要ない。